

中学校(第1学年)「特別活動」

○授業のねらい

- ・思春期の心の変化や性への関心、不安や悩み等に対する向き合い方について理解を深める。
- ・生命の尊さを学び、生命を大切に考える考えや、自分や相手を尊重する態度を身に付ける。
- ・思春期における心身の成長を科学的に理解し、自分や大切な人を守るための正しい知識を身に付け、互いを思いやる心を養う。

○指導形態(工夫したこと)

- ・性について自分事としてとらえ、困ったときに相談できる人間関係づくりや相談の仕方について学ぶため、学級担任、担当者及び養護教諭が市町村保健師を講師として招聘し、講話を行った。
- ・事前に保健体育科の、保健分野「心身の機能の発達と心の健康」と関連させ、学習をした上で講話を実施した。

授業の内容



【配布資料「#つながる BOOK」】

<児童生徒や指導した教員の感想>

○生徒

- ・相手とより良い人間関係を築くためには、自分自身を大切にすることが一番大切であり、相手のことも考えた行動も大切だということがわかった。
- ・心や体の成長について、小学校の頃の授業等で理解していたつもりだったが、今回の学習で今の自分が抱えている悩みの視点から改めて知ることができた。
- ・世界には色々な人がいることや LGBT、同性愛者の人がいるということがわかった。しかし、ジェンダーレスや性への理解がまだ足りないと思ったので、また学習をしたい。

○教師

- ・多様な性や人との付き合い方について外部講師に説明していただき、生徒にとって生命や性について考えることを通じて、相手を尊重するとともに、自分も他者も大切にすることを学ぶ良い機会となった。

授業実施の成果と今後に向けて

○成果

- ・保健師による講話を通じて、心と体の成長に伴う悩み、性の多様性及び人間関係や交際等について、生徒の理解を深めることができた。
- ・生徒に当事者意識を持たせ、性に関する正しい知識や人との適切な付き合い方を理解させることができた。

○今後に向けて

- ・悩んだときに、周囲に助けを求めることが苦手な生徒もいるため、自らの考えや思いを発信できるようにするとともに、周囲の大人も細かな変化を見逃さず、早期発見できる体制整備する必要がある。
- ・指導計画を見直し、生徒の実態に合わせた「生命(いのち)の安全教育」について、一層の充実を図る。

<実際の授業で工夫したこと>

導入

- ・生徒に「『性』とは何か?」という問いを投げかけ、本授業についての見通しをもたせた。

展開

- ・心と体の成長に伴う悩みや人間関係及び男女交際について、個人で考えを深める場面や、グループワークで生徒同士が交流する場面を位置付けた。

終末

- ・授業を通して学んだことや感じたことをワークシートにまとめさせ、次年度の学習の際に活用できるようにした。